

平成30年度日本語指導支援推進校事業

実践報告集

兵庫県教育委員会

目 次

はじめに

1 本資料について

- (1) 日本語指導支援推進校事業について 1
- (2) 本資料の活用について 1

2 日本語指導について

- (1) 日本語指導とは 2
- (2) 外国人児童生徒のためのJ S L対話型アセスメントD L A 2
- (3) 特別の教育課程 2
- (4) 個別の指導計画（年間指導計画） 3
- (5) J S Lカリキュラム 3

3 各校の実践報告

- A 日本語指導
 - A-1 4
 - A-2 10
- B 国語
 - B-1 12
 - B-2 18
 - B-3 29
- C 算数・数学
 - C-1 39
 - C-2 41
 - C-3 47

◇ 参考

J S L参照枠（全体）とD L A（4技能）の評価例

はじめに

グローバル化の進展等に伴い、兵庫県には現在、107,708人（平成30年6月末現在）の外国人の方々が暮らしています。公立学校に在籍する外国人児童生徒数は3,152人、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は1,002人（平成30年5月1日現在）であり、近年増加傾向であるとともに、散在化傾向が進んでいます。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる課題として、自尊感情やアイデンティティが育まれにくいという問題や、基礎学力が十分定着しておらず、進路に影響する問題などが生じています。

兵庫県教育委員会では、平成12年に「外国人児童生徒にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に国籍や民族等の「違い」を「違い」と認め合い、豊かに共生しようとする意欲や態度を育むなど、人権尊重を基盤に多文化共生社会の実現をめざす教育を推進しています。

平成28年度から、県立神戸甲北高等学校、県立芦屋高等学校、県立香寺高等学校の3校において、外国人生徒の特別枠選抜を設けるとともに、小学校・中学校段階で、日本語（生活言語・学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、「日本語指導支援推進校事業」を実施し、3市（姫路市、芦屋市、三木市）14校に日本語指導支援員を派遣しています。平成31年度からは、県立伊丹北高等学校、県立加古川南高等学校の2校が外国人生徒の特別枠選抜実施校に加わり、本事業の重要性はますます高まっているといえます。今後も、指導を受けた児童生徒が各教科及びその他の教育活動に日本語で参加し、主体的に学べるように、日本語指導支援員の指導力向上と校内連携の強化をめざし、研修等において指導内容や指導方法の工夫・改善、体制の整備を図りながら、さらに事業を充実させていきたいと考えています。

本資料は、平成30年度の日本語指導支援推進校の実践を抜粋してまとめたものです。各学校における日本語指導の充実に大いに活用されることを期待しています。

平成31年3月

兵庫県教育委員会

1 本資料について

(1) 日本語指導支援推進校事業について

兵庫県教育委員会は、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対し、実態に応じた日本語指導を推進し、日本語（生活言語、学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、日本語指導支援員を派遣する市町に対して、経費の一部を補助する事業を実施しています。

平成30年度の推進校（姫路市・芦屋市・三木市）の実践を抜粋し、本資料にまとめました。なお、本資料に掲載されている事例については、その他の実践事例とともに子ども多文化共生センターのホームページにも掲載しています。

(2) 本資料の活用について

日本語指導を行うためには、日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況を把握し、個別の指導計画等を作成し、系統的・継続的な支援を行うことが大切です。そこで、各推進校は、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」（平成26年文部科学省作成）等を用いて日本語能力測定を実施し、その結果を踏まえて日本語指導や教科指導を行っています。

下の表は、児童生徒の日本語習得状況と領域（日本語指導及び教科）を示しています。各推進校の実践を、表をもとに分類をしていますので参考にしてください。

日本語の学習段階	日本語能力の把握の方法	領 域			
	DLA（ステージ）	A 日本語指導	教 科		
			B 国語	C 数算 学数	D その他
学習段階 教科につながる	6	A-3	B-3	C-3	D-3
	5				
初期の後期段階	4	A-2	B-2	C-2	D-2
	3				
初期の前期段階	2	A-1	B-1	C-1	D-1
	1				

2 日本語指導について

(1) 日本語指導とは

児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的としています。

ア 「日本語を用いて学校生活を営む」ことができる

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身につけることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉（※「サバイバル日本語」と呼ばれることがあります）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

具体的には、挨拶の言葉や実際の場面で使用する日本語の表現を練習したり、自分の名前を平仮名や片仮名で書いたり、教室に掲示されている文字を理解できるようにしたりすることなどが考えられます。

イ 「日本語を用いて学習に取り組む」ことができる

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、児童生徒の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画をたてる必要があります。

(2) 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA

日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とし、言語能力を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための資料として開発されました。

いわゆる従来型の紙筆テスト等とは異なり、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。そのため、テストの実施を指導者が児童生徒に向き合う大切な機会（対話重視）であるとし、「対話型」を基本としています。指導者と子どもが一对一で向き合うことで、日頃の学習の成果や今後の支援活動で必要となる学習内容・学習領域を絞り込んでいく上で、必要な情報を得ることができます。

(3) 特別の教育課程

帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導を一層充実させるため、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、当該児童生徒の在籍学級以外の教室で行われる指導について「特別の教育課程」を編成・実施することができるようになりました。

「特別の教育課程」による日本語指導は、児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とし、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行います。

(4) 個別の指導計画（年間指導計画）

児童生徒一人一人の実態に応じて「特別の教育課程」を編成し、きめ細かな日本語指導を行うためには、個々の児童生徒の日本語能力や学校生活への適応状況も含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にし、指導計画を作成することが必要です。

個別の指導計画では、個の日本語習得状況に応じて「技能別（聞く・話す・読む・書く等）」及び「各教科」の日本語指導の目標を学習段階や單元ごとに設定して、指導の充実に活かしていきます。文部科学省のホームページには様式が掲載されております。

(5) J S Lカリキュラム

J S L (Japanese as a second language) カリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動についていけない外国籍の（日本語を第二言語とする）生徒の授業に参加するための日本語の力と学ぶ力（「日本語で学ぶ力」）を育成することを目的としたモデル・カリキュラムです。

平成 15 年度に小学校編、平成 18 年度に中学校編が文部科学省から刊行されています。

■参考資料

1 文部科学省

海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ
『CLARINET へようこそ』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet



2 子ども多文化共生センター（兵庫県教育委員会）

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



3 各校の実践報告

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年4月16日）

DLAステージ	ステージ1
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第4学年
- ② 国籍及び母語：ブラジル・ポルトガル語
- ③ 在留期間：9ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・生活言語は少し理解できるが、学年相当の学習言語はほとんど理解できない。
 - ・音読はある程度、単語で区切って読めるが、一音一音発音しているものもある。
 - ・使用頻度の高い語彙や定型表現を使って、短い文を作ることができる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名） 日本語指導：短い文を作ろう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・すきなものについて話すことができる。
- ・すきなものについて質問することができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・すきなもの（食べ物・動物）について定型文を使って発表する。
- ・すきなもの（食べ物・動物）について定型文を使って質問する。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・インタビューを取り入れたことで、緊張しながらも楽しく活動ができた。
- ・他の児童と一緒に活動することで、友だちの発表や表現を参考に文を作ることができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・カード（食べ物・動物）

8 活動の様子

すきなものについて発表している様子



(別紙) 指導の流れ

学 習 活 動	指導上の留意点・評価 (◎)
<p>1 あいさつをする。 「今から、5時間目の日本語の勉強を始めます。」 ・学習の流れを知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・始めと終わりの号令のあいさつを誰がするのかをじゃんけんで決めることで、緊張を和らげる。 ・めあてや学習内容を黒板に書いて知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">好きなことについて、短い文を作ろう。</div>	
<p>2 好きなことについて話を する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">すきな〇〇は何ですか？</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・動物や食べ物について、知っている日本語をできるだけたくさん発表させ、作文の際のヒントとする。 ・日本語でイメージできない場合は、絵カードで視覚的に捉えさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・どうぶつ ・たべもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由も言える児童には、発表させることで、友だち同士で学びあう学習環境とする。 ・しっかり友達の発表が聞けている児童を褒める。 <p>◎意欲的に発表しようとする (観察)</p>
<p>3 好きなことについて文を作り、発表する。 「すきな～は〇〇です。」 「りゆうは～だからです。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージできるよう例文を一つ挙げて、板書する。 ・発表しにくい児童には、板書の中から言葉を探すよう声をかける。 ・ワークシートに板書を正しく写せているか、机間指導する。 <p>◎自分で言葉を選んで、文を作ることができる (聞き取り・ワークシート)</p> <p>◎自信を持って発表できる (観察・聞き取り)</p>
<p>4 好きなことについてインタビューする。 「すきな〇〇は何ですか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューに答えてもらったら、「ありがとうございました。」と相手に伝えるよう声をかける。 ・インタビューする人数を決め、終わったら席に戻るようルールを確認しておく。 <p>◎ゆっくり、はっきりと質問できる (観察)</p>
<p>5 個別に課題に取り組む。 ・プリント ・漢字 ・九九</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないところを1つでもクリアにできるよう、個別に支援することで、学習内容の定着化を図る。 <p>◎集中して取り組める (観察)</p>
<p>6 ふりかえりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3種類の顔のカードから自分の気持ちに近いものを選ばせながら、学んだ内容についてのふりかえりとする。
<p>7 あいさつをする。 「これで、5時間目の日本語の勉強を終わります。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参観者がある中で、よくがんばったことを賞賛することで、自信をもたせる。

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年4月25日）

D L A ステージ	ステージ 2
------------	--------

2 生徒の実態

- ① 学年（中）：第2学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：6ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

ひらがな、カタカナは習得している。小学3年生までの漢字の読み書きは概ねできるが、家庭学習の習慣がないため、定着には時間がかかる。家庭での会話はベトナム語であり、日本語の習得の場は学校内に限られている。日本語を聞く力は徐々についてきているが、それに比べて日本語を話したり書いたりする機会が少なく、その力は身につけていない。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○日本語指導：ベトナムの文化を紹介しよう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・「これは～です。」「ここは～です。」という文型を使い、文を作る。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

・これまでに学習した日本語の文型を使い、ベトナムの文化を紹介する文を書く。

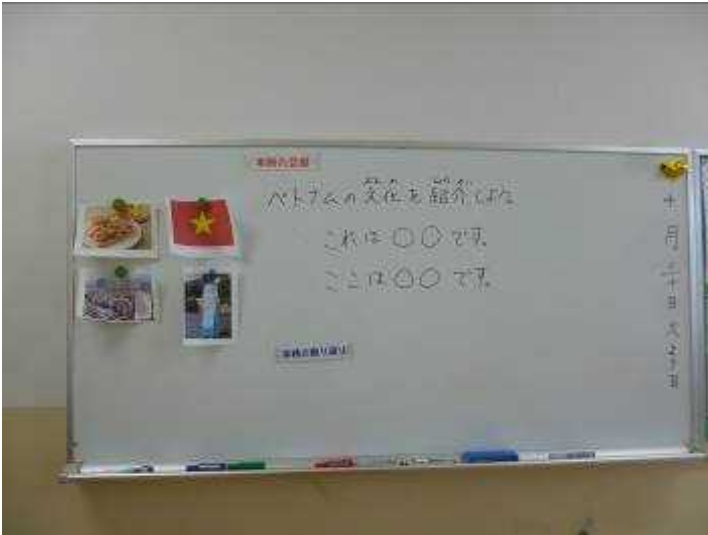
6 指導における工夫点・学習の成果

母国の文化を、日本の友達に紹介するという場面を設定することで、意欲的に学習に取り組むことができた。また、自分の思いを日本語で相手に伝えようとする態度が見られるようになった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

こどものほんご①

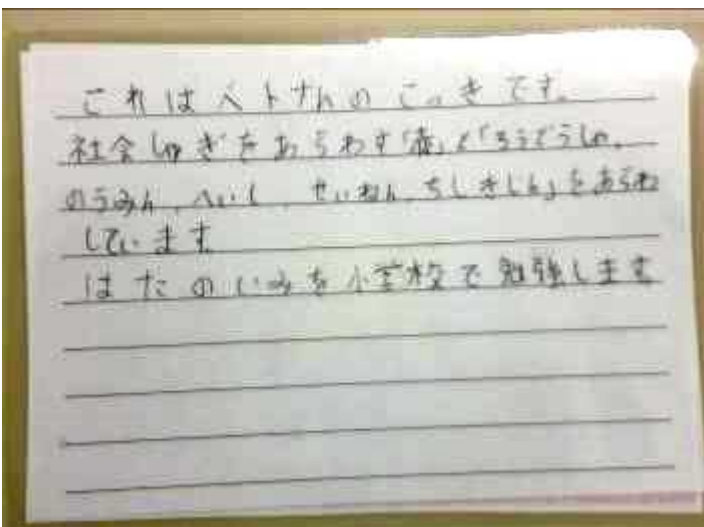
8 活動の様子



板書



日本語で紹介文を書いている様子



完成した紹介文

(別紙)

第2学年 日本語指導学習指導案

1 単元名 ベトナムの文化を紹介しよう

2 生徒の実態

日本語の学習にまじめに取り組み、ひらがな、カタカナは習得している。小学3年生までの漢字の読み書きは概ねできるが、家庭学習の習慣がないため、定着には時間がかかる。

例文を手掛かりに練習問題に取り組むことはできるが、自分の思いを伝えるために積極的に日本語を使う場面が少なく、日本語を話す力、書く力は、あまり身につけていないといえる。

3 目標

ベトナムの文化を紹介するために、今までに学習した文型を使い日本語の文を書けるようになる。

4 指導計画

第1時 今まで学習してきた文型を使い、簡単な紹介文を書く。

第2時 ベトナムの文化を紹介する文を作る。……………本時

第3時 ベトナムの文化に興味を持ってもらえるよう工夫して文を作る。

5 本時の目標

これまでに学習した文型を使い、ベトナムの文化を紹介する文を作る。

6 準備物

こどものほんご①、写真、文例カード、単語カード

7 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1. 前時の復習をする。 ・「これは～です。」 2. 本時の課題を確認する。	・ものを説明する表現を思い出させる。	文例カード
ベトナムの文化を日本語で紹介しよう。		
3. ベトナムについての写真を1枚選び、紹介する文を日本語で書く。 ・国旗 ・都市（ハノイ、ホーチミン） ・食べ物（フォー） ・衣装（アオザイ） ・通貨（ドン） 4. ペアで紹介文を発表し合う。 ・写真を見せながら紹介文を読む。 ・紹介を聞いた人は、もっと知りたいと思うことを質問する。 5. 紹介文を清書する。 6. 本時の学習を振り返り、次時の予告を聞く。	・今までに習った文型を使うようアドバイスする。 ・難しい言葉は単語カードで支援をする。 ・紹介文を書くのが難しい生徒には質問をして、文を作れるよう支援をする。 ・聞き取れるよう、ゆっくりはっきりと話させる。 ・ベトナム文化の紹介カードとして図書室に展示することを伝える。 ・ていねいに書けるよう声掛けをする。 ・今まで学習してきた文型を使って作文が書けることに気付かせる。 ・次は別の写真を選んで紹介文を書くことを伝える。	写真 単語カード

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：A-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年4月24日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第6学年
- ② 国籍及び母語：中国（香港）・中国（広東）語
- ③ 在留期間：18ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・生活言語はほとんど理解できるが、学年相当の学習言語の理解は難しい。
 - ・音読はある程度文節で区切って読め、学年相当の漢字もある程度は読める。
 - ・作文では、表記上のルールの間違いや助詞を含めて誤字脱字が多いが、漢字を使って書くことができる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：読書記録を作ろう（「読む」「書く」の活動を通して）

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・話の大筋をつかんで、あらすじを話すことができる。
- ・あらすじ書き（読書記録）をし、推敲することができる。

5 指導内容の概要

- ・読みたい本を選び、音読、または黙読させる。
- ・あらすじを再生させ、内容が少ない場合は、こちらから質問をして引き出す。
- ・あらすじ再生をもとに、あらすじ書き（読書記録）をさせ、推敲させる。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 あいさつをする。 ・学習の流れを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや学習内容を黒板に書いて知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2 本を選んで読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・黙読を選んだ場合には、途中まで音読させ、読書行動を確認する。 ・わからない場合には、聞いてもよいことを伝える。
3 あらすじを再生する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で話せるところまで再生させる。 ・再生が少ない場合には、質問をすることで話の内容を引き出す。
4 あらすじ書きをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・印象に残った場面を記録として残す。 ・書けたものをアルバムに貼って飾りつけもし、成果物として残すようにする。
5 ふりかえりをして、あいさつをする。	

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・ 自主的で楽しい活動にするため、本は絵本やてのひら文庫などいくつかの中から選べるようにした。成果物としてアルバムを作成することで学習言語の習得につながった。
- ・ 読み返させたり、書いたことに対して問い返したりすることで、誤字脱字や表記上のルールに気付かせることができた。また、その後の活動では、気をつけて書こうとする態度が見られるようになった。
- ・ 継続して取り組むことにより、活動の流れがわかり、意欲的にこの活動に取り組めるようになった。

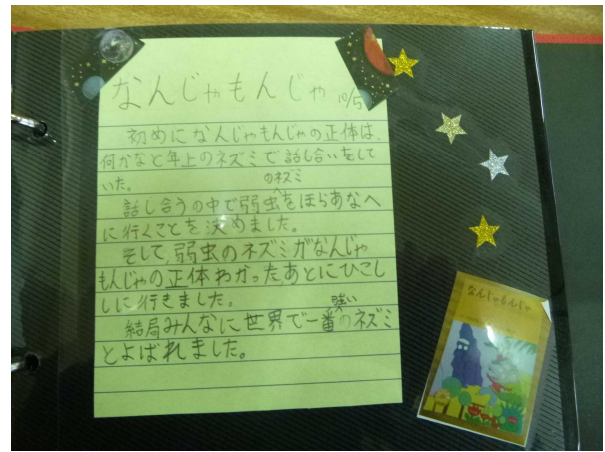
7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・ てのひら文庫 ・ アルバム

8 活動の様子



あらすじ書き活動の様子



学習の成果物（アルバム）



てのひら文庫

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年5月2日）

DLAステージ	ステージ2
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第1学年
- ② 国籍及び母語：ロシア・ロシア語
- ③ 在留期間：77ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

先生や友だちの話はほとんど理解できる。助詞「が」「を」「に」を使い、話すことができる。カタカナ・漢字は読むことができない。一人で単文を書くはできない。ひらがな表や対話による支援は必要である。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：ほんをしょうかいしよう

※日本語指導：登場人物や好きなところを紹介する文を書くことができる。

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・言葉のまとまりで音読し、内容を理解することができる。
- ・単文を正しく書くことができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ① 本を選び、音読する。
- ② すきなところを話し、文を書くことができる。

6 指導における工夫点・学習の成果

児童の発達段階に合わせて、日常会話で構成されたもので、身に付けてほしい会話表現が繰り返し出てくる絵本を3冊準備した。児童と教師による交代読みや役割読みなど、飽きずに繰り返し読ませるよう工夫した。対話形式で好きなところを出させたので児童の気持ちが高まり、より一層本の内容を楽しむことができた。モデル文の量に配慮し、児童がいつもより少し根気を出せば、最後まで書くことができるように設定した。普段は「わからない。つぎ、なんてかくの？」「あってる？」とよく尋ねられるが、モデル文を何度も見返して、自力で書くことができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

福音館書店「こどものとも年少版」通巻421号「あーそーぼ」









学研「ぼうしをとったら」ツペラ ツペラ 作・絵

こぐま社「わたしのワンピース」西巻 茅子 作

8 活動の様子

絵本に興味を持ち、はじめは絵から情報を読み取り楽しんでいた。次第に字に注目し、読むようになった。たどたどしく読むものの、本人なりに自分で読めたという充実感があつたようだ。

好きなところ選びでは、迷わずすぐに決められた。理由を聞くと、「おもしろい。」と答えたので、「どこがおもしろいの？」と聞き返すと、「かみがおもしろい。」と答えた。そして、「ぼうしをとったら、かみがおもしろいところがすきです。」と話す練習を行い、ワークシートに書いた。促音が抜けて書いたので、教師が促音を動作化して示すと、児童は間違いに気づき直すことができた。

	先生の見本	かみが おもしろい ところ		どんなどころがすき？		だれ？ ぼうしの人		すきな本をしようかいしよう
うさぎが出てくるは なしです。ワンピース のもようがかわると ころがすきです。								
								

(別紙)

国語科学習の指導の流れ

- 1 単元名 ほんをしょうかいしよう
 教材名 福音館書店「こどものとも年少版」通巻 421 号「あーそーぼ」
 学研「ぼうしをとったら」ツペラ ツペラ 作・絵
 こぐま社「わたしのワンピース」西巻 茅子 作

- 2 単元目標
 登場人物や好きなところを紹介する文を書くことができる。

- 3 単元の評価規準
 (1) 言葉のまとまりで音読し、内容を理解することができる。(読)
 (2) 単文を正しく書くことができる。(書)

4 単元の指導計画 (全2時間, 本時2時間目)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法 ()
一	1	・ 3冊の1ページ目を読み、読みたい本を決める。 ・ 本を音読する。	・ 楽しく読めるよう、対話形式で本を提示する。 ・ 語句の意味やまとまりに気づかせる。	・ 語句のまとまりに気づき、音読することができる。 【読】(音読)
	2 本時	・ 好きな場面について話す。 ・ 紹介の仕方を知り、文を書く。	・ 教師が児童の話に共感し、たくさん話したい雰囲気を作る。 ・ モデル文を提示し、書きやすくする。	・ 単文を正しく書くことができる。 【書】ワークシート

- 5 本時の目標
 「～するところがすきです。」を使って、好きな場面を紹介することができる。

6 本時の展開 (第一次 第2時)

学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法 ()
1. 登場人物の確認をする。 2. 本時の学習のめあてを確認する。		
〇〇の本を紹介しよう		
3. 好きなところを出しあう。 ・ ~するところがすき。 ・ ~するところがすこしすき。 ・ ~するところが一ばんすき。 4. 紹介文を書く。 〇〇が出てきます。~するところが一ばんすきです。たのしいです。よんでください。 5. 正しく書いているか確かめる。	・ はじめは自由に発言させる。「 <u>〇〇が~するところがすきなんだね。</u> 」を返し、表現に親しませる。 ・ モデル文を提示する。 ・ ひらがな表を使わせ、できる限り自分で書かせる。 ・ 自分で読み返させ、促音など正しく書いているか確かめさせる。	・ 正しく書くことができる。【書】(ワークシート) ・ 正しく読むことができる。【読む】(ワークシート)

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年5月11日）

DLAステージ	ステージ1
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第3学年
- ② 国籍及び母語：ブラジル・ポルトガル語
- ③ 在留期間：99ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・ひらがなの読み書きができるようになってきた。
 - ・自分自身のことや身近な出来事について話すことができるようになってきた。
 - ・日常生活でよく使われる語彙・表現を聞いて理解することができるようになってきた。
 - ・わからないことが質問できるようになった。
 - ・1時間集中して学習することができるようになってきた。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語科：「サーカスのライオン」

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・中心となる人物の気持ちの変化を考えて読み、感想を伝え合うことができる。
- ・中心になる人物を見つけ感想を伝えることができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・挿絵を使って場面構成とあらすじを考えさせたので理解しやすかった。
- ・グループでお互いの意見を伝え合うことにより、自分の知らない言葉が分かり、言葉をつなげて自分の意見を発表することができた。
- ・教科書にルビを打ち、一人でも読めるようにしたことにより、内容が理解できた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・「新しい国語」東京書籍

8 活動の様子

物語の内容を場面ごとに追いながら、取り出し教室（フレンドルーム）で学習している。



教科書の中の漢字にはあらかじめルビ打ちをして、個人読みやグループ読みがしやすいようにした。



挿絵と教科書の文を比べながら段落分けをみんなでした。



挿絵を見ながら自分が心に残った所を伝えている。



算数科の学習でも黒板を使って図に書き表しながら理解を図る。



(別紙)

第3学年 日本語指導 (J S L 国語科) 学習指導案

- 1 単元名 サークスのライオン
- 2 目標 中心となる人物の気持ちの変化を考えて読み、感想を伝え合うことができる。
- 3 指導計画 (全 11 時間)
 - 学習の見通しを立てる。
 - それぞれの場面でのじんざの気持ちを考えながら、物語を読む。
 - じんざに伝えたいことを文章にまとめ、物語の感想を伝え合う。

4 本時の学習

(1) ねらい

中心となる人物の気持ちの変化を考えて読み、感想を伝え合うことができる。

<日本語の目標>

中心になる人物を見つけ、感想を伝えることができる。

<ターゲットセンテンス>

- ・中心になる人物は主人公と言います。
- ・主人公は○○○です。そのわけは○○だからです。
- ・時を表す言葉は・・・です。 (夜・次の日・その夜ふけ)
- ・第○の場面はここまでです。そのわけは○○だからです。
- ・一番心に残った所は主人公が○○した所です。

(2) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 日本語の理解や表現を促す支援 (☆)	備 考
1 本時の課題をつかむ。 ・学習課題を知る。 中心となる人物を見つける。 ・学習課題を把握する。	・題名や挿絵を手がかりに中心人物を想像させる。	挿絵
主人公はだれか考えながら読み、感想を発表する。		
2 解決への見通しをもつ。 ・文章を読んでだれが主人公か、みつけよう。 ・5つの段落にわける。 3 課題を解決する。 ・じんざに伝えたいことを考えながら思ったことを書く。 4 解決方法を共有する。 ・自分の考えを発表する。	☆ワークシートを使って「主人公はじんざです。そのわけは○○だからです。」と答えることができるように支援する。 ・「夜・次の日・その夜ふけ」という時を表す言葉を手がかりにして段落分けをするとよいことを伝える。 ・気持ちを想像しながら一文ずつ声を出して一緒に読む。 ☆ワークシートを使って初発の感想が書けるように支援する。	ワークシート
★評価：ターゲットセンテンスを用いて説明ができる。		
5 学習したことを振り返る。	・じんざの行動を想像することで次時の学習への期待を抱かせる。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年6月1日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第2学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：79ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・日本生まれであるが、一緒に住んでいる母とはベトナム語と片言の日本語、姉とは日本語で話している。
 - ・話す・聞くはとても得意で、語彙量も多い。
 - ・読むことが苦手で、指でおさえながら一文字ずつ拾い読みをしている。少しずつ言葉のまとまりでとらえられるようになってきた。
 - ・自分の思いを書いて表現することが苦手である。一緒に話しながら書くと、書くことができる。また、拗音や促音など正しく表記することにも課題がある。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語科：かんさつしたことをかこう（東京書籍 上）

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・身近な植物を観察して記録することに感心を持ち、進んで観察と記録をしようとしている。（関心意欲）
- ・観点到に沿って植物を観察し、記録するために必要な事柄を集めている。（書く）
- ・色や形、大きさ、数を表す言葉や、比較する言葉などを用いて、つながりのある文や文章を書いている。（書く）
- ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて、観察したことを記録する文章を書いている。（言語）

日本語の目標

「～よりも大きい（小さい）」「～とおなじくらいの大きさ」「～くらいの大きさ」
「～のような色・形・大きさ」などの表現を使って文章を書くことができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

観察カードに書くときの表現を知り、自分が観察したトマトの観察カードを書く。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・獲得してほしい表現を色分けしたカードにして、視覚的にわかりやすくした。
- ・モデル文と一緒に読み、一人でも読む時間を設けた。
- ・ワークシートを穴あきにした。

○ホワイトボードを見たときに、カードに書かれていることで、大事な表現がわかり、その表現を使おうとする姿が見られた。

○授業中に教師が何度も繰り返し使ったり、児童がモデル文を何度も言ったりすることで、記憶を促すことができた。

○ワークシートを穴あきにしたことで、書くことが苦手な児童も一人でカードに書くことができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書（東京書籍）
- ・ワークシート

8 活動の様子

ワークシートやホワイトボードには、観察した苗の写真を掲示し、思い出しやすくした。（写真①）



（写真①）



（写真②）

モデル文のカードは、観点ごとに色分けして、提示した。

「葉っぱは何枚ありましたか？」と尋ね、「5枚です」と児童が答えたら、「葉っぱは5まいありました。」と正しい文型で伝え、児童にも繰り返し言わせるようにした。（写真②）

(別紙)

第2学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導案

1. 単元 「かんさつしたことを書こう」東京書籍(上)

2. 対象児童の実態

対象児童は、該当クラスの国語と算数の時間にワールドルームで取り出している。複数学年が一度にやってくるので日本語指導研究推進教員、児童生徒支援教員（日本語指導）と日本語指導支援員が役割分担をして支援をおこなっている。

2年 A児 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 日本生まれ
在日期间と家庭での生活言語
<ul style="list-style-type: none">・日本生まれ・家庭では、母とはベトナム語、兄姉とは日本語を使って生活している。
日本語習得状況
<ul style="list-style-type: none">・家庭では、ベトナム語を使い生活しているので、正確な日本語に触れる機会は学校生活の中に限られている。・日常会話は理解できているが、学習の場面では、集中力が短く、一斉指導では指示が通りにくいことがある。・作文や日記などを一人で書くことは難しい。何を書けばよいのかわからず、止まってしまう。・2年生の教科書はよく読めている。・物語や説明文を聞いて、内容をおおまかに理解することはできる。・ひらがな・カタカナ・今までに習った漢字はよく覚えているが、つまる音やちいさい「ゃ」などの誤用がある。
2年 B児 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 日本生まれ
在日期间と家庭での生活言語
<ul style="list-style-type: none">・日本生まれ・家庭では、両親とはベトナム語、姉とは日本語を使って生活している。・1年生の4月に1か月ほどベトナムに帰国。1年生の初期指導を受けていない。
日本語習得状況
<ul style="list-style-type: none">・家庭では、ベトナム語を使い生活しているので、正確な日本語に触れる機会は学校生活の中に限られている。・日常会話は理解できている。難しい言葉もよく知っており、大人と会話もできる。耳から入ってくる日本語をそのまま使用している。（「ベトナム」→「ベトナム」）・書きたいことが思い浮かぶが、文章の書き方がわからず止まってしまう。支援が必要である。・2年生の教科書は一文字ずつ追って読んでいる。読めない漢字も多い。・物語や説明文を聞いて、内容をおおまかに理解することはできるが、自分が読んだ部分の内容はよく理解していない。・ひらがな・カタカナは定着しているが、漢字は未定着のものが多い。

2年 C児 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 日本生まれ
在日期間と家庭での生活言語
<ul style="list-style-type: none"> ・日本生まれ ・家庭では、ベトナム語を使って生活している。 ・2年生の5月中旬から約2週間、ベトナムに帰国していた。
日本語習得状況
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭では、ベトナム語を使って生活しているので、正確な日本語に触れる機会は学校生活の中に限られている。 ・日常会話は理解できているが、一斉指導では指示が通りにくいことがある。わかっている不安で「こうするの?」と何度も確認をする場面が見られる。 ・作文や日記などを一人で書くことができるが、話し言葉と書き言葉は使い分けられない。 ・2年生の教科書はよく読めている。 ・物語や説明文を聞いて、内容をおおまかに理解することはできる。 ・ひらがな・カタカナ・今までに習った漢字はよく覚えている。
2年 D児 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 日本生まれ
在日期間と家庭での生活言語
<ul style="list-style-type: none"> ・日本生まれ ・家庭では、両親とはベトナム語、妹とは日本語を使って生活している。
日本語習得状況
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭では、ベトナム語を使い生活しているので、正確な日本語に触れる機会は学校生活の中に限られている。 ・日常会話は理解できているが、一斉指導では指示が通りにくいことがある。 ・作文や日記などを一人で書こうとするが、思ったことをそのまま書くので、文法的にまちがった文になっている。読み直しても、自分の間違いには気付くことができない。 ・2年生の教科書はよく読めている。 ・物語や説明文を聞いて、内容をおおまかに理解することはできる。 ・ひらがな・カタカナ・今までに習った漢字はよく覚えているが、つまる音やちいさい「ゃ」などの誤用がある。

3. 指導にあたって

児童は国語科の時間に取り出し指導を別室で受けている。教科書に沿って教室での学習内容と同じ内容を学習している。

児童は、1年生のときに身近な動植物を観察し、大きさや色、形などについて気付いたことを書く学習を行っている。また、生活科の学習でも、あさがおやチューリップなどの植物を観察し、カードに書く活動を行っている。本単元では、より詳しい観察を通して、観察したものの様子を記録するために必要な事柄を集め、具体的に記録文を書く力を身につけさせることをねらいとしている。

指導にあたっては、まず単元の初めに、校庭に咲いている花を見つけ、その花の色や形、大きさや葉の数、においや触った感じなどの質問をし、児童に興味を持たせ、観察して気付いたことを記録する活

動への意欲を持たせたい。観察する前には、花や葉の色や形、大きさなどに着目するなどの観察の観点を伝えておく。次に、穴あきのワークシートを使用して、校庭の花の観察カードを書く活動を行う。書く前には、色を表す言葉「こいみどり色」や「うすいみどり色」、形を表す言葉「ぎざぎざ」「まるい」、大きさを表す言葉「～よりも大きい(小さい)」「～とおなじくらいの大きさ」「～くらいの大きさ」、触感を表す言葉「ふわふわ」「つるつる」「ちくちく」、似ているものと比べて書くときに使う言葉「～のような色(大きさ、形)」などの言葉を学習させたい。そして、かんさつカードに書く活動では、自分のトマトの苗を観察させる。活動の初めには、教科書の文や前回の校庭の花の観察カードを読ませて、活動への見通しを持たせる。観察して、気づいたことをくわしく書くための言葉を使って書けるように、声に出して音読してから書く活動に移りたい。

4. 単元同士のつながり

《観察・記録》

学年	1年	2年
単元名	わたしのはっけ ん	かんさつしたこ とを書こう

5. 単元目標

身の回りの植物の様子を観察し、気づいたことを記録する文章を書くことができる。

6. 単元の評価規準

- ・身近な植物を観察して記録することに感心を持ち、進んで観察と記録をしようとしている。
(関心意欲)
- ・観点に沿って植物を観察し、記録するために必要な事柄を集めている。(書く)
- ・色や形、大きさ、数を表す言葉や比較する言葉などを用いて、つながりのある文や文章を書いている。(書く)
- ・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いて、観察したことを記録する文章を書いている。(言語)

7. 単元の指導計画・指導評価(全5時間)

時	児童の学習内容・活動	指導上の留意点	大切な言葉・主な評価
1	○学習の見通しを立てる。 ・学習課題をつかみ、学習の見通しを立てる。 ○畑のキュウリを観察する。 ○観察して気付いたことをノートに書き、発表する。	・教科書を読んで、活動に見通しを持たせる。 ・観察する前には、観察する観点(色、大きさ、形、さわったかんじ)を確認しておく。 ・気付いたことをノートに書かせる。	植物を観察して記録する文章を書くことに興味を持ち、進んでキュウリを観察している。(発言・行動観察) かんさつ、はっぺは○まい 形(ぎざぎざ、まるい、とがっている) 色(こい(うすい)○○色)

			大きさ（～くらいの大きさ） さわったかんじ（ざらざら、 つるつる、ふわふわ）
2 (本時)	○かんさつカードに書くとき に使う言葉を学習する。 ・校庭の花を観察して気付いた ことをカードに書く。	・ワークシートを使用して、文 章を書かせる。 ・ワークシートは穴あきにして おく。	観察したことを記録する文章 の内容や書き方の工夫につい て理解している。(ワークシ ート) ～よりも大きい(小さい) ～とおなじくらいの大きさ ～くらいの大きさ ～のような(色、形、大きさ)
3 ・ 4	○自分で育てているトマトの 苗を観察して、観察カードに 書く。 ・気付いたことをメモに書く。 (在籍学級)	・例文を読み、使う言葉や文型 を確認する。 ・言葉や文型は黒板に提示して おく。	植物を観察して、様子がよく伝 わるように表現を工夫し、つな がりのある文章を書いている。 (ワークシート)
5	○かんさつカードを発表して、 感想を伝え合う。 (在籍学級にて) ・かんさつカードを友達に発表 して、よいところを伝える。	・読む練習をする。 ・感想を述べる時の言葉を提 示しておき、それを見ながら 感想を述べるように助言す る。	観察した観点や記録した内容 のよさ、表現の工夫を見つけ て伝え合っている。(発言・行 動観察) ～がよかったです。 ～がおもしろかったです。

8. 本時の目標

(1) 本時の目標（2／5時間）

観察したことを記録する文章の内容や書き方の工夫について理解して、ワークシートを使用し、文章に書き表すことができる。

(2) 日本語の目標

・「～よりも大きい(小さい)」「～とおなじくらいの大きさ」「～くらいの大きさ」「～のような色・形・大きさ」などの表現を使って文章を書くことができる。

ターゲットセンテンス

- ・(葉・花)はどのくらいの大きさでしたか。 ・(葉・花)は何に似ていましたか。
- ・(葉・花)はどんな(色、形、大きさ)でしたか。

9. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1. 前時の学習内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の植物のことで気付いたことを振り返り、発表させる。(記) ・前時に出てきた言葉を観点ごとに黒板に貼り、分類して掲示しておく。(理) 	言葉カード 植物の写真
観察したことを「かんさつカード」に書こう		
2. かんさつカードに書くときの言葉や表現を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を読み、本時の活動に見通しを持たせる。 ・似ているものと比べて書くときに使う言葉を提示し、音読させる。(表) 	表現のカード
3. ワークシートに観察したことを文章に書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・穴あきワークシートを用意し、文章を書かせる。(表) ・ワークシートに書いたことを音読させる。(記) ・掲示用の穴あきワークシートを黒板に貼っておく。 ・文章を書き終わったら、自分で書いた文を音読させる。 	穴あきワークシート (児童用、掲示用)
4. 次時の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は自分のトマトの苗を観察することを知らせる。 	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年5月10日）

D L A ステージ	ステージ4
------------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第3学年
- ② 国籍及び母語：ペルー・スペイン語
- ③ 在留期間：41ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

【話す力】教科の語彙を使って、順序立てて説明をすることができる。

【読む力】支援を得て、物語文や説明文を読み、大意を理解することができる。

【書く力】日常使用頻度の高い語彙を使って、順序よく作文を書くことができる。

【聴く力】教科学習で、学級全体の話し合いを理解しある程度参加することができる。

在籍学級では、教師の話す内容を大体理解できるが、詳細がわからずとまどうことがある。学習活動を理解できると、積極的に発表している。そこで、学習内容が難しい場合は、先行して学習したりわからなかった所を復習したりしている。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：ペルーのお祭りを伝えよう

※日本語指導：相手にわかりやすいように順序を考え、説明することができる。

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- (1) ペルーのお祭りについて家族に詳しく尋ねることができる。（聞）
- (2) 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考えることができる。（書）
- (3) 相手にわかりやすいように順序を考え、話すことができる。（話）

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ①ペルーのお祭りに知っていることを書き出す。
- ②家で家族にインタビューをする。
- ③インタビューで分かったことを話し、伝えたい内容を整理する。
- ④メモを見ながら、本番に向けて話す練習を行い、質疑応答の練習もする。
- ⑤友だちにペルーのお祭りについて、説明する。

6 指導における工夫点・学習の成果

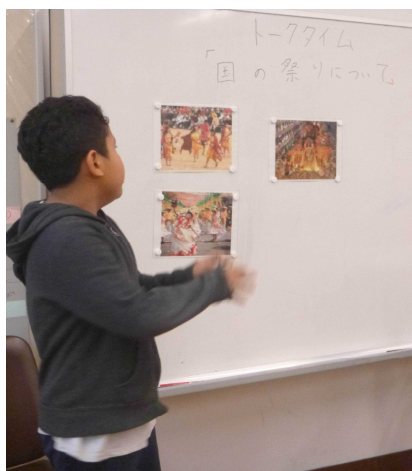
ペルーで過ごした経験を基にインタビュー活動を取り入れた。また、既習したことを定着させるために、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考える場面を作った。日頃は母親と母国のことについて話す機会がないが、インタビュー活動を通して、

母国のことを意欲的に学ぶことができた。また、インタビュー活動では、丁寧な話し方を復習することができた。そして、友だちにペルーのお祭りを説明する目的があったため、お祭りの内容を初めて知る人に分かりやすくしようと説明内容を吟味する姿があった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

日本や世界のお祭りの写真

8 活動の様子



知っていることをマップに書き出すと、知っていることがある程度あり、本人なりに満足していた。そこで、お祭りの目的やいつからしているのかなど質問すると、「わからない…。」と気づき、母親にインタビューする内容をどんどん考え始めた。

インタビューにより分かったことを書き出す際は、ワークシートにすらすら書いていた。その書き出しにより、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てが困り感なくできた。モデル文を提示する時は、つなぎ言葉を入れると、聞き手は分かりやすいと気づくことにつながった。まだ使うときに迷うが、意識して取り入れるようになった。

友だちへの説明では、言い間違いに自分で気づき修正しながら話す姿が印象的だった。質疑応答では、知っていることはスムーズに返し、知らないことは今後調べると答えていた。

この学習を通して、インタビュー、「はじめ」「中」「おわり」の組み立ての復習と、相手にわかりやすく話す積み上げにつながった。日頃は母国や文化について触れる機会が限られているので、よい機会だった。

(別紙)

国語科学習の指導の流れ

1 単元名 ペルーのお祭りを伝えよう

2 単元目標

相手にわかりやすいように順序を考え、説明することができる。

3 単元の評価規準

- (1) ペルーのお祭りについて家族に詳しく尋ねることができる。(聞)
- (2) 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考慮することができる。(書)
- (3) 相手にわかりやすいように順序を考え、話すことができる。(話)

4 単元の指導計画(全4回、本時2時間目)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法()
一	1	<ul style="list-style-type: none">・ペルーのお祭りに知っていることを書き出す。・もっと知りたいことを整理する。・家で家族にインタビューをする。	<ul style="list-style-type: none">・さまざまな場面を想起できるように、絵を見せる。・時期、場所、目的、内容など種類ごとに整理させる。・なぜ、インタビューするのか家族に伝えるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・知っていること、経験を書いて整理ができる。 【書】(ワークシート)
二	2	<ul style="list-style-type: none">・インタビューで分かったことを話す。・伝えたい内容を整理する。・「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考慮する。	<ul style="list-style-type: none">・1枚のワークシートにわかったこと、組み立てメモを書かせる。一目見て、児童が話す手がかりになるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・組立を考慮して書くことができる。【書】(ワークシート)
	3	<ul style="list-style-type: none">・メモを見ながら、本番に向けて話す練習をする。・質疑応答の練習をする。	<ul style="list-style-type: none">・自分の発表を振り返らせ、どの部分を改善すると良いか考えさせる。・質問を想定し、答える練習をする。	<ul style="list-style-type: none">・順序よく話すことができる。【話】(発表)
三	4	<ul style="list-style-type: none">・友だちにペルーのお祭りについて、説明する。	<ul style="list-style-type: none">・説明するために必要な写真や絵を用意しておく。・一方通行にならないように、質疑応答の時間をとる。	<ul style="list-style-type: none">・相手を意識した話し方ができる。【話】(発表)

5 本時の目標

○伝えたい内容を選び、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考慮することができる。

6 本時の展開（第一次 第2時）

学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法（ ）
1. 家族にインタビューをして分かったことを書く。 2. 本時の学習のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・箇条書きで分かりやすくする。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考えよう </div>		
3. 友だちに伝えたい内容を4つにしばる。 4. 「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考え、ワークシートに書く。 はじめ⇒話題提示 中⇒ペルーのお祭りの内容 おわり⇒まとめ 5. 次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「中」「おわり」には、どんな内容がよいか確認させる。 ・モデル文を準備し、考えやすくする。 ・つなぎ言葉「まず」「次に」「そして」「このように」をきちんと押さえる。 ・次は何をするのか心構えを持たせ、意欲につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの組み立てを考えることができる。【書】（ワークシート）

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年5月2日）

DLAステージ	ステージ5
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第2学年
- ② 国籍及び母語：フィリピン・フィリピノ語
- ③ 在留期間：66ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

【話す力】 教科内容に関連した話し合いに積極的に話すことができる。

【読む力】 文章全体の大意を把握し、自分なりの意見や感想をもつことができる。

【書く力】 内容に見合った語彙や表現や文体、学年相応の漢字を使って作文を書くことができる。

【聴く力】 通常のスピードで進む教科学習の中で教師が説明する内容の大筋を理解できる。

ほとんどの学習は在籍学級で理解し学習できるが、経験不足や文化・習慣の違いから、先行学習が必要である。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語：うれしいことばをしょうかいしよう

※日本語指導：組み立てを考えて文章を書くことができる。

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを理解している。
- ・丸、点、かぎの決まりを理解し、正しく書くことができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ① 経験から、言われてうれしかった言葉を話す。
- ② かぎを使って、うれしい言葉を文で表す。
- ③ 5つの文を3つの組み立てにする。
- ④ うれしいことばのしょうかい文を書く。

6 指導における工夫点・学習の成果

「こんなもの、見つけたよ」で「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを学習している。一度では理解や定着が難しいことから、この単元でも3つの組み立てを復習する指導にした。

成果として、まず、3つの組み立てを学習した直後に、復習する形となったので、児童に困り感がなく学習を進めることができた。次に、「はじめ」「中」「おわり」の

内容は題材によって異なると理解できた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

絵・写真、3コマ漫画

8 活動の様子

かぎ「」の使い方を頭では理解しているものの、文章を書いているときは、おわりのかぎの後に続いて書いてしまうなど間違いが見られた。しかし、板書のモデル文と比較させ、自分に間違いに気がつくことができた。

おわり	中	はじめ	<p>うれしいことば</p> <p>休み時間に水とうをおとしました。 お茶がゆかにこぼれました。 大はしさんが見ていて「いっしょに ふくよ。」と言ってくれました。 やさしいなと思いました。 こんどはぼくがたすけたいです。</p> <p>はじめ↓いつ、なにをしているとき 中 ↓だれに、どんなことば おわり↓自分の気持ち、今後</p>
<p>やさしいなと思いました。こんどは、ぼくがたすけたいです。</p>	<p>大はしさんが見ていて「いっしょにふくよ。」と言ってくれました。</p>	<p>休み時間に水とうをおとしました。お茶がゆかにこぼれました。</p>	

(別紙)

国語科学習の指導の流れ

- 1 単元名 うれしいことばをしょうかいしよう
教材名 うれしいことば (光村図書2年上)
- 2 単元目標
組み立てを考えて文章を書くことができる。
- 3 単元の評価規準
(1)「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを考えることができる。(書)
(2)丸、点、かぎの決まりを理解し、正しく書くことができる。(伝国)
- 4 単元の指導計画(全2時間, 本時2時間目)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法()
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・経験から、言われてうれしかった言葉を話す。 ・かぎを使って、うれしい言葉を文で表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな場面を想起できるように、絵を見せる。 ・間違えた書き方を提示し、正しい表記のルールを理解を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしかった言葉を話すことができる。【話】(発表) ・表記のルールが理解できる。【伝国】(ノート)
	2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの文を3つの組み立てにする。 ・うれしいことばのしょうかい文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に3つの分け方を説明させる。 ・組立に困ったときは、3コマ漫画にして見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組立を考えて書くことができる。【書】ワークシート

- 5 本時の目標
○うれしいことばをしょうかいしよう
- 6 本時の展開(第一次 第2時)

学習活動	指導上の留意点	評価規準【 】 評価方法()
1. 前時のふり返しをする。 2. 本時の学習のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・表記のルール、うれしい言葉を確認する。 	
うれしいことばをしょうかいしよう		
3. 5つの文を「はじめ」「中」「おわり」の3つに分けさせる。 はじめ→いつ、何をしていたとき 中→だれに、どんなことば おわり→自分の気持ち、今後 4. 文章を書く。 5. 正しく書いているか確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかりやすい文章になるように3つに分けさせ、説明させる。 ・「はじめ」「中」「おわり」には、どんな内容がよいか確認させる。 ・文を全て書き、後で組み立てを考えるのか、書きながら3つに分けるのかは児童に選ばせる。 ・誤字脱字、表記ルールの忘れなどないか確かめさせる。 ・はじめて読む人が分かる内容か、考えさせる。必要ならば文を追加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの組み立てを考えることができる。【書】(ワークシート) ・正しく書くことができる。【書】(ワークシート)

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年5月17日）

D L A ステージ	ステージ 4
------------	--------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第6学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：109ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

日本生まれであるので、生活言語には支障なく生活できている。一方で、学習言語では意味の読み取れない語句も多い。特に、その語句自体が持っている意味や語句の前後の文からも場面の情景や人物の心情を推測して読み取ることが難しい。そのため、根本的な語句自体の意味や語句の種類を理解する力が必要である。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語科：言葉の由来に関心を持とう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・現代の日本語がどのような由来を持つ言葉から成り立っているのか、また、それぞれどのような意味を持っているのかを理解して分類する力を養う。
- ・文章を書く際に適切に語句を用いて書く力。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

本時は、全2時間のうちの1時間目にあたる。本時では、どの語句が和語・漢語・外来語にあたるかを分類し、同じ意味の文章でも用いられる語句が違うことを学ぶ。2時間目には、同様の意味を持つ和語・漢語・外来語を用いて文章を書かせることで、語句を適切に用いて書く力を身に付けさせる。

6 指導における工夫点・学習の成果

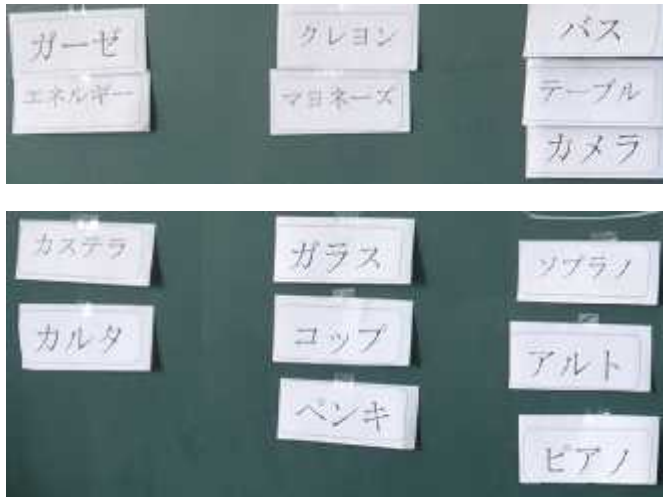
工夫点

- ・多くの和語・漢語・外来語を提示して情報過多にすることで、それぞれの語句で共通する意味を考えさせる学習状況を作り出した。

成果

- ・多くの語句の中から、読み方等に注目して分類することができた。また、同じ意味を表す和語、漢語と外来語も理解することができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）



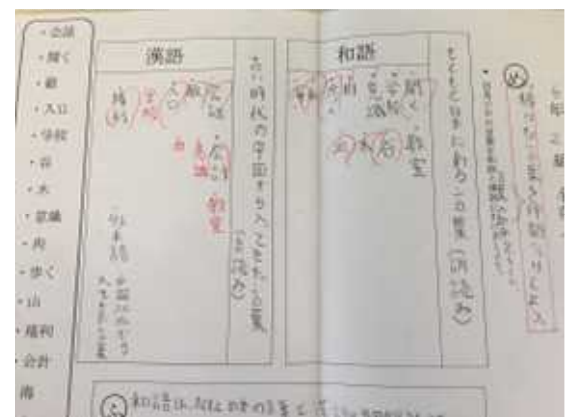
8 活動の様子

多くの語句を扱うことにより、語句意味を考えて、和語・漢語・外来語に分類することができた。また、和語では「昼飯」、漢語では「昼食」、外来語では「ランチ」と表され方は違うが、意味は同じであることを理解して、短文を書く練習にも取り組むことができた。



(写真1)

本時の学習から、同じ意味を持つ語句であっても、和語と漢語では表記の違いがあり、更に外来語もあることで、外国籍児童にとっては、複数の語句を処理することが難しいことが改めて分かった。このことを低学年から学習して活用することで、語句の習得にもつながる。また、物語の読解や推測して読むことにもつながると考えられる。



(写真2)

(別紙)

第6学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導案

1 題材

「言葉の由来に関心を持つ」

2 児童の実態

日本生まれであるので、生活言語は多くを身につけているが、家庭では両親とベトナム語と日本語で会話しているので、語彙量は多くはない。学習に対して、いつも前向きに取り組めているが、学習言語で理解ができないため、分からない事が多い。国語科では、物語文で心情を読み取ったり、語句から推測して場面を考えたりすることが難しい。指導にあたっては、和語・漢語・外来語の語句の特徴を読み取り、同じ意味でもそれぞれ表記が異なることを知り、それらの語句を活用して同じ意味の短文を書くことで、語彙力や書く力を向上させ、読み取る力、語句から推測して読む力につなげたい。

3 目標

和語・漢語・外来語について理解し、言葉に対する関心を深めることができる。

4 指導計画（2時間）

第1時 和語・漢語・外来語の特徴を読み取り、分類し活用する。……………（本時）

第2時 同じ意味でも表記の違う語句を用いて短文を作る。

5 本時の目標

(1) 目標

語句の特徴を読み取り、和語・漢語・外来語に分類して、簡単な場面で活用することができる。

(2) 日本語の目標

○同じ意味でも違う表記の語句を簡単な場面で用いることができる。

- ・「昼食」
- ・「昼飯」
- ・「ランチ」

6 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例文を用いて、言葉には和語・漢語・外来語があることを伝え、それらを語句の特徴を考えて分類できるか学習課題をたてる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>様々な言葉を言葉の特徴に着目して仲間分けをしよう</p> </div>		
<p>2 語句を分類分けする。</p> <p>(1) 和語と漢語に分類する。 (個人思考)</p> <p>(2) 和語と漢語に分類する。 (集団解決)</p> <p>(3) 外来語を分類する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、和語と漢語の分類から始める。 ・和語と漢語を複数提示して情報過多にすることで、特徴を捉えて分類する必然性と傾向を捉えて類推して分類させやすくする。 ・黒板に提示した語句が記載されているワークシートを配布して、まずは自分で分類させる。 ・つまづく児童には、こちらで和語と漢語に分類したものを見せることで、共通する特徴を考え分類させる。 ・考えた分類を操作させて分けさせる。 ・どういった特徴から分類したのか根拠を発表させる。 ・外来語には英語・イタリア語・フランス語など様々にあることを知らせ、ゲーム形式で黒板に直接分類させていく。 ・同時に外来語の由来も説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句カード ・ワークシート
<p>3 同じ意味の短文を書く。</p> <p>(1) 同じ意味の語句を選択する。</p> <p>(2) 短文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず和語を用いた「昼飯を頼む」という短文を提示して、これと同様の意味になる漢語と外来語を短冊の中から選ばせる。 ・選んだ語句を用いて同様の意味になるように短文を書かせる。 漢語「昼食を頼む」 外来語「ランチをオーダーする」 ・書いた文を発表させる。 	
<p>4 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「語句の特徴」、「同じ意味」ということを意識させて振り返りを書かせる。 ・同じ意味でも和語・漢語・外来語では表記の仕方が違うという内容の振り返りがあれば取り上げ、次時には、本時で少し取り組んだ同じ意味で表記の違う語句を用いて多くの短文を作ることを伝えて、意欲付けを行い、次時につなげる。 	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：B-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年4月18日）

DLAステージ	ステージ4
---------	-------

2 生徒の実態

- ① 学年（中）：第3学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：172ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

日本で生まれ育っており、日常会話では流暢に日本語を話すことができている。しかし、家庭内ではベトナム語を使用しており、日本語の語彙が少なく、学習言語の習得は不十分である。そのため、学習内容の理解が難しい場合がある。わかりやすい日本語に直して、丁寧に説明すると理解することができる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○国語科：レモン哀歌

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・詩の内容を理解する。
- ・象徴的な表現の意味を捉える。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・難しい語句に注意しながら詩の内容を読み取る。
- ・詩の表現が表しているものを考える。

6 指導における工夫点・学習の成果

近代に書かれた詩は、使用されている語句や象徴的な表現により、日本語指導が必要な生徒にとって理解が難しい場合がある。そのため、語句の意味を丁寧に確認しながら読み取ることで、詩の内容の理解を図った。また、独特の表現をわかりやすい言葉に置き換えて説明することで、作者の思いを捉え、詩に表されている内容について考えることにつなげることができた。

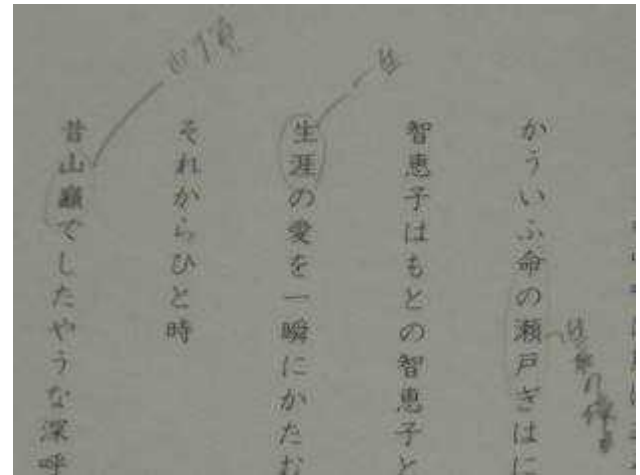
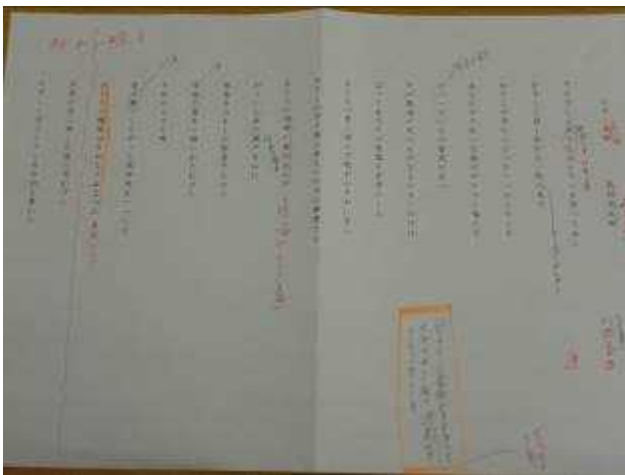
7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・レモン哀歌（「新しい国語3」東京書籍）

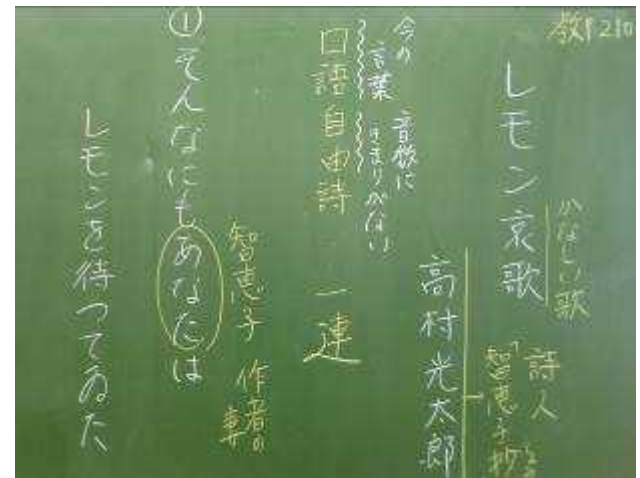
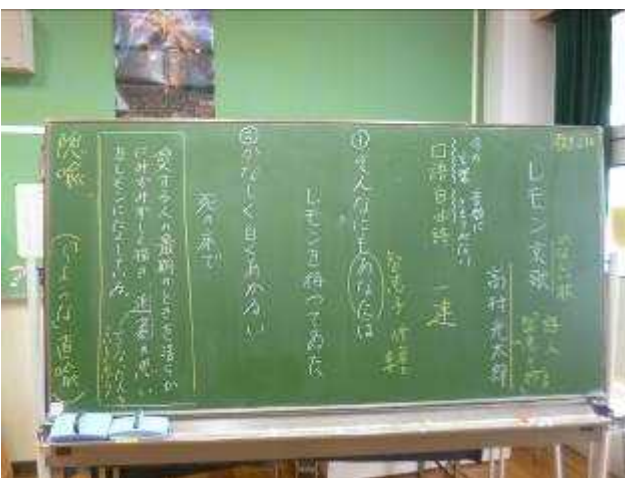
8 活動の様子



授業の様子



ワークシート



板書

(別紙)

第3学年 日本語指導（JSL国語科）学習指導案

1 単元名 レモン哀歌（「新しい国語3」東京書籍）

2 生徒の実態

日本で生まれ育っており、日常会話では流暢に日本語を話すことができているが、家庭内ではベトナム語を使用しているため、日本語の語彙が少なく、学習言語の習得は不十分である。日常で使うことのない語句や、詩の象徴的な表現などの理解は難しいため、わかりやすい日本語での丁寧な説明が必要である。

3 目標

- ・効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。
- ・詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。

4 指導計画

第1時 詩の内容を捉え、表現の効果を考える。

……………本時

第2時 詩に描かれている生と死について考え、班で話し合い発表する。

5 本時の目標

(1) 目標

効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。

(2) 日本語の目標

詩の中に出てくる、「死の床」「咽喉に嵐がある」「瀬戸ぎわ」「機関はとまった」などの、語句や表現の意味を理解する。

6 準備物 国語辞典

7 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1. 本時の目標を確認する。		
効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。		
2. 全文を通読する。	・読みを確認し、音読できるようにする。	
3. 語句の意味を確かめ、大意を把握する。	・難しい語句については、辞書で意味を確かめさせる。	国語辞典
4. 表現の効果を考える。	・象徴的な表現は、わかりやすい言葉で説明する。 ・表現技法の名称、意味を確認する。	
5. 次時の予告を聞く。	・詩に描かれた生と死について考え、班で話し合うことを伝える。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-1】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年5月2日）

DLAステージ	ステージ2
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第2学年
- ② 国籍及び母語：ポリビア・スペイン語
- ③ 在留期間：25ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・簡単な生活言語は使える。会話の中で「分かる」、「分からない」など自分で伝えることはできつつあるが、意味がよく分かっていないことが多い。
 - ・ひらがなの読み書きはできるが、片仮名や漢字はまだ定着していない。既習の物語文は読めるが、内容理解までには支援が必要である。日記や作文はかなり支援が必要である。
 - ・かけ算の九九は、正確に言えるようになっている。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数科：「かけ算の九九」

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・かけ算の仕組みを知る。
- ・足し算を使わなくても計算できるよさを知る。
- ・かけ算の九九を正確に唱えられるようにする。
- ・かけ算の九九を使って問題が解けるようになる。

5 指導内容の概要

- ・さまざまなものを使ってかけ算の意味をつかむ。
- ・挿絵を手がかりにして、かけ算を作る。
- ・九九の言い方の練習をする。

6 指導における工夫点・学習の成果

工夫点

- ・挿絵を使い、視覚的に分かりやすいようにした。「何のいくつ分」を視覚的に分かりやすくした。
- ・同じパターンで学習を繰り返すことにより、かけ算の仕組みや足し算からかけ算への切り替えがスムーズにできた。
- ・身近な物からかけ算の問題を作ることで、より意味がつかみやすかった。
- ・何度も繰り返し唱える練習をすることで九九を唱えることに自信が付き、次の段

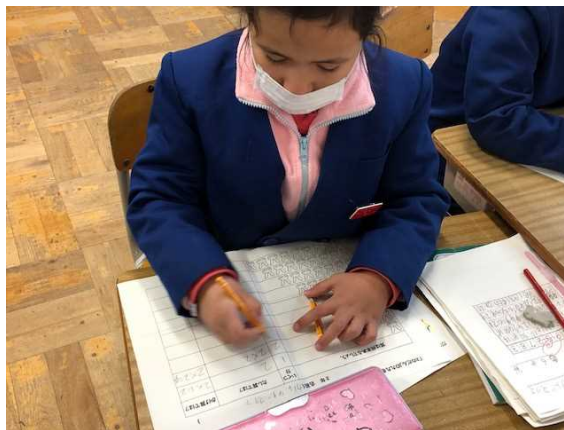
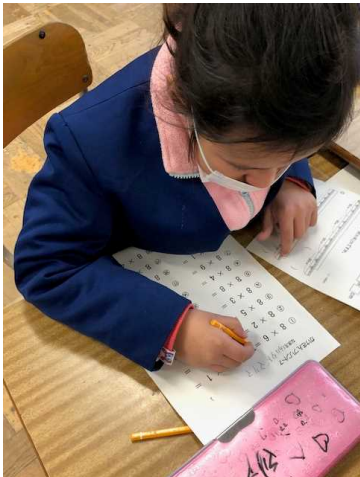
の学習へとつながった。

- ・ 少人数ではあるが、教室と同じように発表形式で学習をしたり他の学年と一緒に学習したりすることで、刺激を受け合うことができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・ かけ算の仕組みのプリント
- ・ 九九のプリント
- ・ 暗唱プリント

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年6月1日）

DLAステージ	ステージ3
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第4学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語、ベトナム・中国語
- ③ 在留期間：約50ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

日本生まれだが、幼少期にベトナムの祖父母宅に預けられていた。小学校1年11月に本校に入学した。家では、片言のベトナム語と中国語、日本語で生活している。語彙量も多く、日常会話はある程度身についているが、読み書きが苦手で漢字がなかなか定着しない。

算数では、計算が苦手で九九が身についていないので、かけ算やわり算の計算にとても時間がかかる。文章問題は、一人で取り組むことは難しい。一緒に読みながら説明をすると取り組むことができる。

3 教科：単元名

○算数科：垂直・平行と四角形

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・平行四辺形の性質を調べ、その性質を理解することができる。

日本語の目標

・向かいあう辺、向かいあう角の意味がわかる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

・平行四辺形の角の大きさや辺の長さを調べる活動を通して、平行四辺形の性質を理解する。

6 指導における工夫点・学習の成果

・「台形」「平行四辺形」の掲示物を使用し、実際に図形を触ったり、動かしたりすることで、「向かいあう辺」「向かいあう角」を視覚的にわかりやすくした。

○ワークシートを使用したことで、どこに何を書けばよいのかがわかり、書くことが苦手な児童も一人で取り組むことができた。

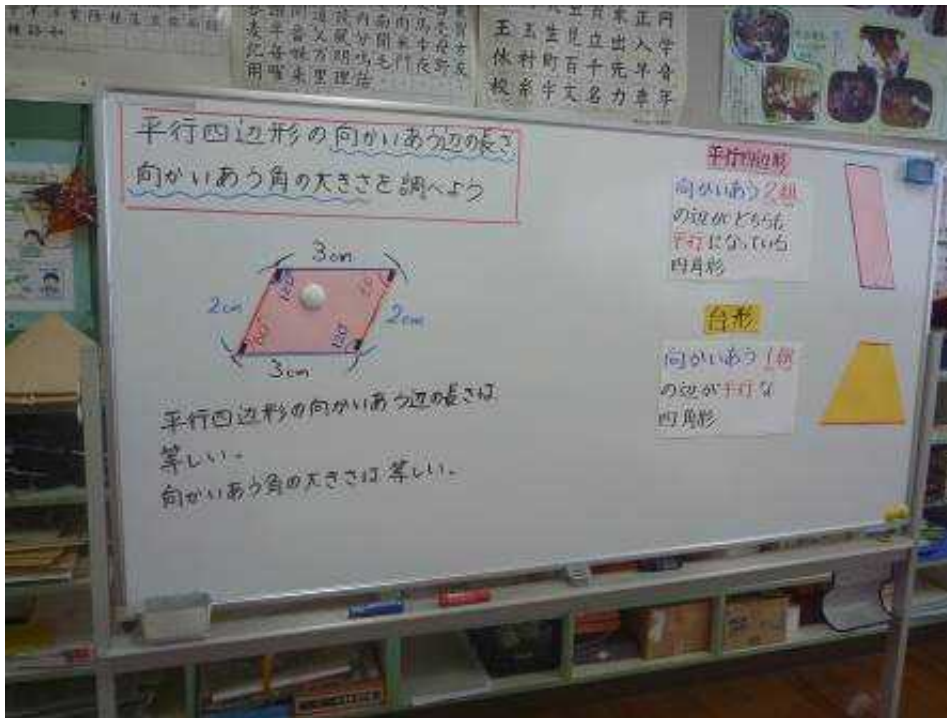
・向かいあう辺・向かいあう角を色分けして提示したことで、視覚的に「等しい」ことをわかりやすくし、平行四辺形の性質に気付かせる手がかりになった。

○大切な言葉を何度も読み、ワークシートに書かせたことや、練習問題に取り組んだことは、記憶支援につながった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・教科書（啓林館 上）
- ・ワークシート

8 活動の様子



(別紙)

第4学年 日本語指導（JSL算数科）学習指導略案

1 単元名 垂直・平行と四角形

2 本時の学習

(1) 目標 平行四辺形の性質を調べ、その性質を理解することができる。(発言・ワークシート)

(2) 日本語の目標

・向かいあう辺、向かいあう角の意味がわかる

【ターゲットセンテンス】・辺〇〇は何cmですか ・角△は何° ですか

(3) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
1 既習の学習を振り返る。	○前時で学習した四角形「台形」「平行四辺形」を見せ、図形の名前を復習させる。(記)	平行四辺形と台形の図形
2 本時の課題をつかむ。	○平行四辺形の図形を指しながら、向かいあう辺・角を確認し、課題をつかませる。(理)	
平行四辺形の向かいあう辺の長さや、向かいあう角の大きさを調べよう		
3 平行四辺形の向かいあう辺の長さや向かいあう角の大きさを調べる。 ・一人で考える ・考えを交流する	○長さを測るとき・角度を測るときに使う道具を確認する。 ○穴あきのワークシートを用意し、調べたことを書きこませる。(表) ○調べたことを何度も発表させることで、向かいあう辺や角が等しいということに気付かせる。 ○向かいあう辺と向かいあう角を視覚的にわかりやすくするため、色分けして提示する。(理) ○理解を深めるため、児童のプリントにも色分けして書き込みをさせる。(理) ○教科書のまとめを声に出して読み、線を引かせる。(記) ○ワークシートにまとめを書かせる。(記)	ワークシート 定規 分度器 コンパス ワークシートと同じ図
4 練習問題をする。 ・教科書P72⑤ ・教科書P134㉑	○練習問題を用意する。(記)	
★評価：平行四辺形の性質を理解している。		
5 本時の学習を振り返る。	○次時は平行四辺形を描くことを伝え、意欲を持たせる。	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-2】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年5月11日）

D L A ステージ	ステージ 3
------------	--------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第5学年
- ② 国籍及び母語：日本・ベトナム語
- ③ 在留期間：123ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・父親がベトナムにルーツがあるので、家庭ではベトナム語と日本語の両方で生活しているため、微妙な日本語のニュアンスが理解できない。
 - ・日常的な語彙はある程度理解している。
 - ・身近な日常語彙を使って自分の考えを話すことができる。
 - ・ゆっくりでもだいたいの文節や単語に区切って読めるが漢字は覚えていない。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数科：割合

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・割合の意味について理解し、小数や百分率を用いて問題を処理することができる。
- ・求めた割合を帯グラフや円グラフに表すことができる。
- ・割合、くらべる量、もとにする量、百分率、歩合の意味を理解する。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

既習事項である算数学習時に出てくる語彙を再度確認したことで、日本語の理解ができていないと文章題が解けないことを理解することができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

教材 わくわく算数5下（啓林館）

8 活動の様子

表や図を書いて、めあてにそって前に出て立式する活動を繰り返している。フレンドルームで学習している仲間と共に説明したり考えたりする活動がお互いに刺激になり良い面が出ている。仲間と安心して活動することは、自信がなくても自分の考えを伝えようという思いにつながっている。

割合の単元は、難しいと感じているが、取り出し教室で教え合って学習しており、わかった時の喜びは大きいようである。



問題を見て各自で立式している。



図を書いて割合を求める式を考えている。



図を見ながら説明している。



定員という言葉の意味が皆わかっていなかった。わかっているものとして進むことは危うい。既習事項についてもわかっているかどうか確認しながら学習を進める必要がある。算数科にも語彙の支援は必要である。

(別紙)

第5学年 日本語指導 (J S L 算数科) 学習指導案

1 単元名 割合

2 指導計画 (全14時間)

- 第1時 復習と準備
- 第2～5時 割合 (本時2 / 14)
- 第6～9時 百分率
- 第10～11時 割合のグラフ
- 第12～14時 割合を使って

3 本時の学習

(1) 本時の目標

- クラブの希望調査をもとに、本単元の学習課題をとらえる。また、割合の意味と割合の求め方について理解する。

(2) 日本語の目標

- 「割合はくらべる量わるもとにする量」という公式の意味がわかり、使える。

<ターゲットセンテンス>

定員、希望者、割合、 $\text{割合} = \text{くらべる量} \div \text{もとにする量}$

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 問題を読み、本時の課題をつかむ。 グラフを見て気づいたことをいう。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での希望クラブを話題にして関心を持たせる。 ・差が同じであっても違うことを、ソフトボールクラブとサッカークラブの定員と希望者を比べて考えさせ何倍になっているかを見つけたら良いことを予想させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">割合についてわかる</div>		
2 自力解決 希望者は定員の何倍ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボールクラブとサッカークラブのどちらの希望者が多いのか何倍になるかを求めさせる。 ・定員、希望者、割合という言葉の意味の確認をする。 	
3 話し合い 図を書いて説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・定員と希望者を帯図や関係図に表すことにより視覚的に何倍になるか分かりやすくする。 ・ある量をもとにして、くらべる量がもとにする量の何倍にあたるかを表した数を「割合」ということを知らせる。 ・「もとにする量」「くらべる量」という用語を知らせ割合の求め方をおさえる。 	
4 練習問題をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・図を描かせて、同じやり方でできることを理解させる。 	
5 ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・定員や希望者が違う場合は、倍で比べるとよくわかり、$\text{割合} = \text{くらべる量} \div \text{もとにする量}$で求められることを確認する。 	ワークシート

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年6月1日）

DLAステージ	ステージ5
---------	-------

2 児童の実態

- ① 学年（小）：第5学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：127ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・ 日常会話は話せるが学習語彙は少ない。
 - ・ 日本語の独特の言い回しや意味の多様さに対応しにくい。
 - ・ 学習には意欲的に取り組み、粘り強く考えることができる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

○算数科：単位量あたりの大きさ

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・ 単位量の意味を理解し、一方の量を単位量にそろえて比べる方法を理解する。
- ・ 日常生活の中から単位量あたりの考え方が用いられる場面を知り、2つの観点から量の大きさを比べることができる。
- ・ 人口密度を理解し、大きさを比べることができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・ 例題を見て、どの部屋がこんでいるか予想する。
- ・ 一方の量をそろえることで比べられることを考える。
- ・ 単位量の意味を知り、単位量を使って比べる。

6 指導における工夫点・学習の成果

工夫

- ・ 導入の部分ではなぜ比べることができないのかを考えさせ、一方の量をそろえれば良いことに気付かせる。
- ・ 既習事項が活用できないかを確認する。
- ・ 問題を解くときは2通りの解き方をし、表現の違いから正しく判断できるようにする。
- ・ 解答するときは文章化することで、単位量の意味をしっかりと押さえさせる。
- ・ 練習問題をするときには単位量で割ればよいことをパターン化していく。
- ・ デジタル教科書を活用することで、必要な情報だけを提示し、課題に集中させる。

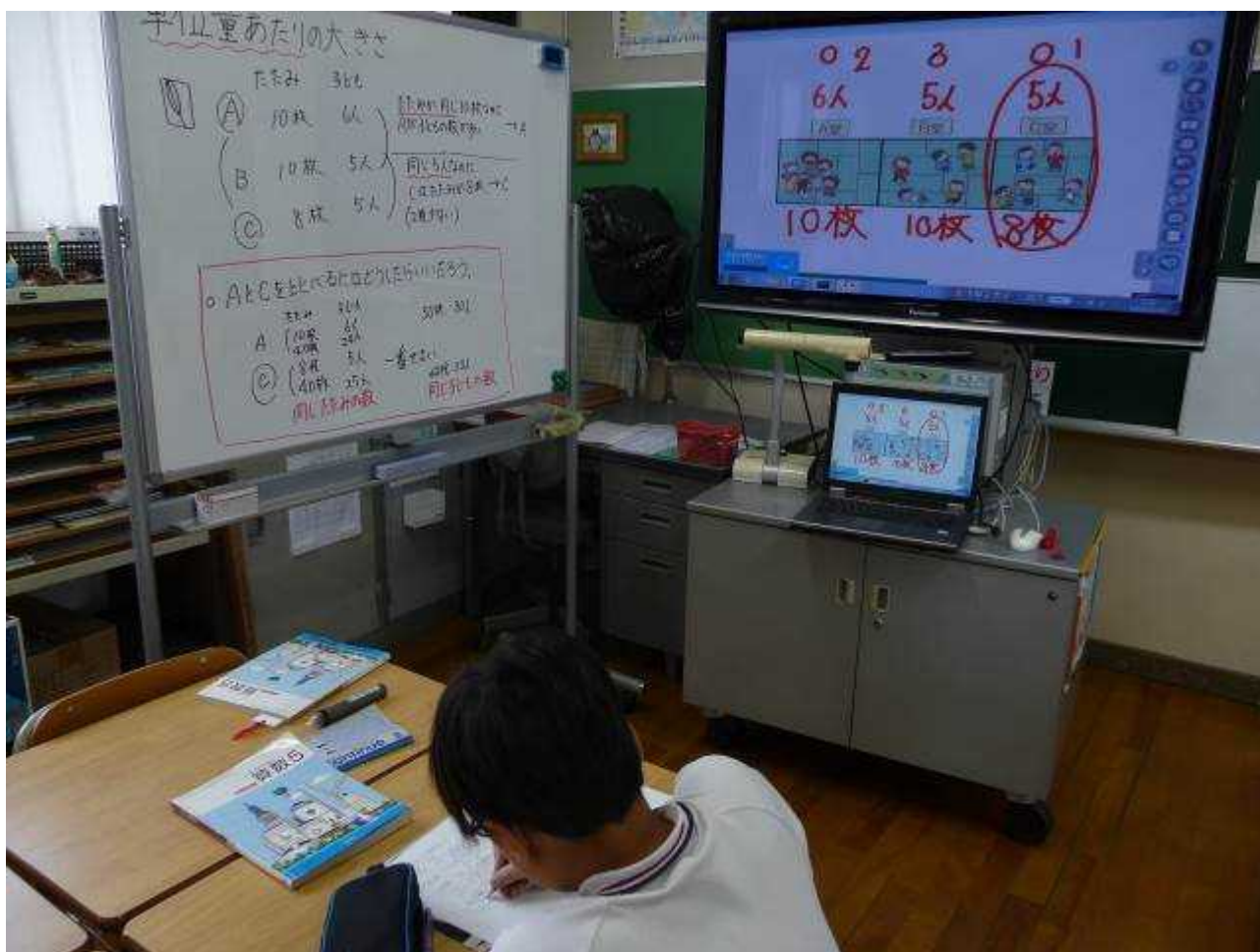
成果

- ・モニターに必要な情報だけを提示することで、1つの問題に集中し、自分の考えで解き進めることができた。
- ・提示した画面に書き込むことで、わかりやすく説明ができた。
- ・「倍数」の考えでも説明できることから、身近な問題としてとらえることができ、単位量の考えにも移行しやすいものとなった。
- ・説明の時の文章を前半で提示したことで、解答の際に、ある程度パターン化して説明することができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・デジタル教科書
- ・電子黒板

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



(別紙)

第5学年 日本語指導（JSL算数科）学習指導案

1 単元 「単位量あたりの大きさ」

2 趣旨

本単元では、異種の2つの量の割合で表される量について、その比べ方や表し方、つまり「単位量あたり」の考え方を学習する。異種の2つの量を比較する場合、一方の量を単位量として、相対的に比較するという「単位量あたり」の考え方をを用いることで簡単に比較することができるようになることを理解するものである。

児童はこれまでに3年生のわり算で「同じ数ずつ分ける」5年生の「平均とその利用」の学習を通じて「ならず」という作業の計算方法は身に着けている。しかし、日本語での読み取り表現が苦手な児童にとってはその意味などについてはあいまいにしかとらえられておらず、本単元で使用する「単位量あたり」の考え方、特に、単位量を何に設定するかで答えとして出てきた数値をどのように捉えればよいのか、混乱が予想される。

指導にあたっては、導入の段階で畳の枚数、子ども的人数を単純に比較するだけで比べることができず、どちらか一方の大きさをそろえて比べることを理解させる。考えの糸口としては既習内容の公倍数や平均などを想起させていくが、「単位量あたり」の考えで大きさを比較することが分かりやすいことに気づかせる。また、解答の際、文章化することで、出てきた答えを正しく判断し、表現できるようにしたい。さらに、日常生活の様々な場面で「単位量あたり」が使われていることに気づかせ、身近なものとして捉えさせたい。

人口密度では身近な県や特徴のある県を取り上げ、興味を持って学習が進められるようにしたい。

3 指導計画

第1時 「単位量あたり」に注目して、混みぐあいを比べる。(本時)

第2時 日常生活の中で「単位量あたり」を考える。

第3時 人口密度

4 単元目標

- ・身のまわりから、関心をもって「単位量あたり」がつかわれているものをみつけようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・「単位量あたり」に着目する考え方を説明することができる。(数学的な考え方)
- ・「単位量あたり」を使って、2つの観点から量の大きさを比べることができる。(技能)
- ・日常生活に「単位量あたり」の考えがあることを理解する。(知識・理解)
- ・人口密度の意味について理解する。(知識・理解)

5 本時の目標

(1) 目標

- ・「単位量あたり」に着目する考え方を理解する。

(2) 日本語の目標

- ・「単位量あたり」の考え方に着目し、解くことができる。
- ・「同じ〇〇で比べると」、「〇〇1〇〇あたり」という言葉を使って求めた数値を正しく説明できる。

(3) ターゲットセンテンス

- ・同じ畳の数で比べましょう。
- ・同じ子ども数で比べましょう。
- ・子ども1人あたりの畳の数で比べましょう。
- ・畳1枚あたりの子どもの数で比べましょう。

6 学習展開

学習活動	○発問・指導上の留意点◆評価	備考
<p>1 問題の把握 ・ 畳と子どもの数から混みぐあいを考える。</p> <p>2 A室とC室の混みぐあいを考える。</p>	<p>○ 3つの部屋の中でどの部屋が一番混んでいますか。</p> <p>・ 「こんでいる」という状況を様々な例を用いてイメージ化を図る。</p> <p>・ 問題を把握しやすいよう、条件を図に書き込ませる。(記)</p> <p>◆ 同じ数で比べるとわかりやすいことに気づく。(発)</p> <p>・ 比べる根拠となることをはっきり説明できるように言葉を考えさせる。(記)</p> <p>・ A室とC室では比べられないことに気づかせる。(理)</p> <p>○ 畳の数も子どもの数も違うA室とC室ではどちらが混んでいるといえるのでしょうか。</p>	<p>デジタル教科書 ホワイトボード</p>
<p>【考えを出させる問い】 A室とC室ではどちらが混んでいるといえるのでしょうか。</p>		
<p>・ 前段階を参考に、どちらかを同じ数に揃えればよいことに気づかせる。</p>		
<p>【考えを深める対話を促す問い】 同じ数に揃えるためにはどうすればいいのでしょうか。</p>		
<p>3 根拠を示し解答する。</p> <p>4 本時のふりかえりをする。</p>	<p>・ 公倍数や平均で学習した内容を思い起こさせる。</p> <p>・ 公倍数より単位量あたりの方が比較しやすいことに気づかせる。</p> <p>◆ 単位量あたりの意味を文章化し説明させる。(記)</p>	

日本語指導支援推進校事業 実践報告書

【領域：C-3】

1 児童生徒の日本語習得状況（平成30年9月14日）

DLAステージ	ステージ5
---------	-------

2 生徒の実態

- ① 学年（中）：第1学年
- ② 国籍及び母語：ベトナム・ベトナム語
- ③ 在留期間：151ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況

家庭では、ベトナム語で生活をしており、日本語に触れる機会は学校に限られている。漢字で表現された言葉の理解が大変低い。家庭学習での習慣ができていないため、学習内容の定着が大変難しい。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名） ○数学科：方程式

- #### 4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力
- ・方程式とその解について学ぶ。
 - ・教科書の中で使用される言葉の意味を理解することができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- #### 6 指導における工夫点・学習の成果
- ・校内での指導体制の構築（時間割、教科担当との連携、共通理解等）
 - ・時間を有効に使い、意欲的に取り組ませることができた。

7 教材・教具（開発教材も含む） 在籍学級で使用する教科書

8 活動の様子



(別紙)

授業の流れ

① 在籍学級の時間割を調整する。

単元「7回」授業のうち、1、2回目を取り出し、3～6回目は在籍学級で、7回目は取り出し授業を行う。

② 取り出し1回目

単元の範囲について、理解が難しい言葉や表現の説明などを行う。

この単元を学習するために必要な内容の確認をする。(関係する内容を参考)

③ 取り出し2回目

在籍学級で行う授業を先に学習させる。

④ 在籍学級での3回目～6回目の授業

授業者と連携を取りながら、理解できたこと、できなかったことを確認する

⑤ 取り出し7回目

単元のまとめを行う。

関係する内容

小学校

2年 加法と減法の相互関係

3年 符号の用語

加法と乗法の交換、結合、分配法則

乗法と除法の相互関係

□を使った式

線分図や二次元の表

4年 加減乗除の計算の順序

5年 割合の意味と計算

6年 比の意味、比の値、等しい比

中学校

1年 正の数、負の数

文字の式

方程式

2年 連立方程式

方程式と関係する内容を整理することで、今までの学習やこれからの学習がどのようにつながっていくかを知ることができ、効率的に指導することができた。また、理解できていないところがあれば、焦点化して指導することができた。

< JSL参照枠(全体)とDLA(4技能)の評価例 >

文部科学省 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAから

ステージ 学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	DLA<話す>					DLA<<読む>>					DLA<書く>					DLA<聴く>			支援の段階	日本語の学習段階	
	話の内容とまとまり	文・段落の質*	文法的正確度	語彙*	発音・流暢度*	話す態度	読解力	読書行動	音読行動*	語彙・漢字*	読書習慣・興味・態度	内容	構成*	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール*	書く態度	聴解力*			聴解行動
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる <input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い					<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる					<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる			自律支援付き	教科につながる学習段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる <input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い					<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> ある程度まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、誤用が少ない文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる				
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる <input type="checkbox"/> 日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある					<input type="checkbox"/> 安定して文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる					<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける					<input type="checkbox"/> 身近な内容の話をして聞いて大体理解できる			個別学習支援段階	初期の後期段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる <input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢度が低い					<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるがだいたい文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> テーマと関連がある複数の文が書ける <input type="checkbox"/> 文字・表記上の誤用が多い					<input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話をして聞いて支援を得る程度理解できる				
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	<input type="checkbox"/> 二語文 <input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さなし					<input type="checkbox"/> 文字習得が進む <input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> 文を書こうとする <input type="checkbox"/> 表記ルールをある程度理解して文を書こうとする					評価対象外			初期支援段階	前期段階
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	<input type="checkbox"/> 一語文 <input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さなし					<input type="checkbox"/> 文字習得が始まる <input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる <input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が始まる									

(一年以内)

(6か月以内)